

生産間接材大手の㈱ミスミグループ本社（東京都千代田区）は、新たな事業としてロボット導入支援サービス「MiBOT」（ミボット）の展開を加速している。ロボットの導入を検討する中小企業などに向けて、パッケージ化した様々なロボットシステムの事例をウェブサイト（<https://jp.mitsumi-e.com/special/robot/>）で価格帯や動画などと合わせて紹介するとともに、最適なロボットシステムインテグレーター（Sieer）の紹介も無料で行うサービスで、製造業の持続的発展にもつながる事業として今後取り組みを強化する。

ミスミグループ本社

ロボ導入支援事業を加速

バラ積みピッキング



¥ 1,260万円～
6.5ヵ月～

アーク溶接



¥ 880万円～
5.0ヵ月～

MiBOTのページではシステムインテグレーション費用も含めた参考価格を表記

7%を占め、日本の従業者の約7割が働く中小企業でのロボットの普及・拡大が重要視されている。

しかし、初めてロボットの導入を検討する中小企業などの場合、ロボットの導入に向けた相談相手がおらず、導入費用などのイメージがつかないといったケースが出ている。

一方、ロボットシステムの導入提案や設計、組み立てを行うSieer側

から見た場合でも、ロボットが対応できる作業内容や必要費用などに関して、新規ユーザーが想定する内容とのずれが大きいケースや、新規開拓に向けた営業リソース不足などが課題となっている。

MiBOTを立ち上げた。ミスミは、MiBOT導入支援サービス「MiBOT」を立ち上げた。ミスミは、MiBOT

の事業展開にあたり、全国有数のロボットSieer約40社と協業。そして各Sieerの実績をもとに、様々なロボットシステムを標準（パッケージ）化し、マシンテンディング、ピッキング、外観検査向けなど18カテゴリ・38種のロボットパッケージの事例をMiBOTのウェブサイトに動画などとともに掲載している。

事例紹介のページでは、システムインテグレーション費用も含めた参考価格が表記されていることが大きな特徴で、これによりユーザーはロボットシステムの導入に向けた費用感を掴むことができる。そして、MiBOTではユーザーが自社の課題解決に適した事例を選択したあと、ミスミグループにて機械設計事業を展開する㈱タイセキが無料ウェブカウンセリングを行う。その後、ユーザーが選択した事例とヒアリング内容を踏まえ、最適なSieerを紹介するといふ流れだ。事例紹介ページの閲覧はもちろんのこと、カウンセリングからSieerメーカーの紹介まですべて無料でできることが特徴で、MiBOTでは補助金の取得に向けた支援会社も無料で紹介する。

システム事例など無料で紹介

ユーザー側のメリットとしては「MiBOTによって、ロボットの活用イメージも掴むことができる。通常はロボット関連企業のホームページや展示会などで情報収集しながら、適したロボットシステムを探した上で、選定までに時間も手間もかかるが、MiBOTではそうした作業を大幅に低減できる。また、パッケージ化されたロボットシステムをベースにするため設計・組立に要する時間や費用を低減できる」（MiBOT事業の担当者）ことが挙げられる。また、Sieerから見た場合のメリットも大きく、「MiBOTではヒアリングなどを通じて

状況を整理し、その分野に強みを持つSieerをお客様に紹介する。つまり、Sieerからみれば自社が強みを持つ分野の新規顧客候補のみが紹介されることになり、通常の新規顧客候補に比べて成約率を高めることができる」（同）。

MiBOTの本格展開を3月から開始しており、受注案件も着実に増加している。今後はサービスの充実に向けて、パートナーとなるSieerなどの拡大を図るとともに、2024年度（25年3月期）内にロボットパッケージの事例紹介数を60種類まで拡大することを目指す。また、当面は製造業向けを中心に据える方針だが、中長期では製造業以外の分野のロボットパッケージをラインアップすることなども検討する。

MiBOTでは、顧客に時間価値を提供するため、「時間戦略」を事業の重要なテーマとして掲げ、顧客の無駄や手間を減らしてきた。そして、MiBOTにもその事業戦略が反映されており、「MiBOTによって、中小企業の方は、適したロボットシステムを探すなど、ロボット導入までにかかるあらゆる手間を大幅に減らせる。Sieerの方からみれば有望なお客様に辿り着くまでの業務負担を削減できる。そして創出された時間で新たな価値を創造していただけるようにしていきたい」（同）という。

現在、ミスミグループは国内において製造業約13万社との取引基盤を構築している。そのなかでロボットによる省人化・自動化を製造業の発展に向けた重要な要素として捉え、MiBOTでロボット導入の入り口としての役割を担うことで製造業をさらに支援し、「ロボットによる自動化を検討する際に、『まずはMiBOTで相談する』とあっていただけるようなサービスにすることを目指す」（同）。